### 職業実践専門課程等の基本情報について

	学校名																		
大学校   おきままり   大学校		動車整備	平月	成14年2月	6日	大山	節夫		007-0892 北海道札幌市東区ロ	中沼西2条1丁目15番	<b>地</b> 15号								
学校近人元田守瀬   横松55年10月31日   古田 神田   古田 神田   で 00.000 (00.000 )											1-5.0.5								
								Ŧ											
選挙を与いまして、	学校法人吉田!	学園	昭和	53年10月	31日	吉田	祐樹	(住所) (雷話)	北海道札幌市中央[ 011-272-6070	区南3条西1丁目15番	<b>持</b> 地								
学科の目的 水学科は、必須「物味がルケービスエングンサを目指、のもない。飲食剤とより上出った。色彩温養生たして充み物は対すでする中門物類及び対象の影響についています。	分野			í						高度専門士認知	定年度								
### 18/10-19 (19/10 19	工業		専門課程		一級自	動車整備	学科		-	平成18(2006)	年度	平成	27(2015)年度						
学科の学科、活動 可能の情報、一連 可能の情報、一連 可能の情報、一連 「	学科の目的									を備士として最先端技行	士として最先端技術に対応できる専門知識及び技能の取得に								
接着の関係																			
「		取待可能7						計士・二級シ	一セル目動単整備士・	二級二輛目虭車登備	i±								
# 生株園変異	修業年限	昼夜	主味性の1		立数						実	-							
生物部定列   生体実質人   国学生教士を集中的の中(10)   国学生制合(10人)   142人   0人   0人   142人   0人   0人   142人   0人   0人   142人   0人   0人   142人   0人   142人   0人   142人		昼間		単位いずれ	.,	-	998			,									
東京		生徒到	実員(A)	留学生	数(生徒実員の)	内数)(B)	留学生割	]合(B/A)			ı								
	160 Å	142			0	1	0%												
■ 変異の主義を (2) : 16	100 人						0%	Y											
■ 他の元成情音報(ア) 13 人。 ■ 関係であるの必要を指示したら見た。(ア) 10 9。 ■ 東京市にあるの必要を指示している。(日) 9。 ■ 東京市にあるの必要を対象の利金(F/C) 10 9。 ■ 東京市にあるが観音の利金(F/C) 10 9。 ■ まとの変態を、集帯 0 人 ■ まとの変態を、集帯等 (今社・東京集出) ・		■就職希	望者数(D)			16		Ž.											
■ 変数自によめる妊娠が成場の対象で、(ドウ・日) 100 95 100 100 100 100 100 100 100 100 100 10								<del>}</del>											
(2) 96  (2) 100 (3) 100 (4) 100 (5) 100 (5) 100 (6)		■就職率	(E/D)		S = 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	100													
議議等の状況  (今後 4 年の中年 100 96 10		■就職者	に占める地	元就職者の	ノ割合 (F/E)			%											
■ 正字を数		■卒業者	に占める就師	職者の割合	(E/C)														
■ 本の機構等の状況  (今年 4 年度空業者に関する今日5年5月1日日本の管理) ■ 本の経験表、業界等  (今日 4 年度空業者に関する今日5年5月1日日本の管理) ■ 本の経験表、業界等  (46年2年3日 と、日本の大学・株式会社・人民・37日間助本株式会社・特式会社・特式会社・大学の大品模様式会社・特式会社ホングラースに提供支金社・技術会社大工・大型の登録を対している。 (48年2年12年12年12年12年12年12年12年12年12年12年12年12年1		■進学者	数					人											
(今前 4 年度を集長に関する作品与5月1日時点の地類) ■主な複数性、業界等 (作的年度を実現) 1 成分:3へい様式会社・規則:3分目動車技式会社・技工会社にする設定を設定しまる選及バル模式会社・1-3クカローラ札原技式会社・株式会社がクガース有限が大・構工会社で大地による社が上しておける動物が出来。近点は、する動物を主な社で大地による社がトーン人権  部務指導等 ・		■その他	,																
(今前 4 年度を集長に関する作品与5月1日時点の地類) ■主な複数性、業界等 (作的年度を実現) 1 成分:3へい様式会社・規則:3分目動車技式会社・技工会社にする設定を設定しまる選及バル模式会社・1-3クカローラ札原技式会社・株式会社がクガース有限が大・構工会社で大地による社が上しておける動物が出来。近点は、する動物を主な社で大地による社がトーン人権  部務指導等 ・	就職等の状況																		
■主な複雑点、業界等 (今8年年度主義)  中級中音を主義・ 中級中音を主義・ 中級中音を主義・ 中級中音を主義・ 中級中音を主義・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級・ 中級	13/649% 47 02 DC 126																		
(今の年度平高生)    株民   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日					作に関する令利	和5年5月	1日時点の	情報)											
利利ドニマン・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・大きながインツスル海 近日・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社・株式会社				寺															
ダカーズ札側中央・株式会社スズキレビオ・株式会社をトーレン札幌     北間福海内容     プラス担任と状態担当者の連携により、毎週2コマ就職せるで展展書指導、面接指導、入社試験指導を実施。     プラス担任と状態担当者の連携により、毎週2コマ就職せるで展展書指導、面接指導、入社試験指導を実施。     オールスページ     東西の部を、例えば以下について任意配数				社・札幌ト	ヨタ自動車	株式会社・	株式会社	いすゞ北淮	毎道試験場・北海道ス	バル株式会社・トヨ	タカローラキ	l幌株式会	社・株式会社スズキ						
議職指導内容 ・クラスと担任と欧陽担当者の連携により、毎週2コマ就職ゼミで関連書指導、面接指導、入社試験指導を実施。 - 月に2回程後、企業のが限機当当者とOB、OGによる就能清熱を美熱して収製活動の意識の向上を図り放散活動を促す。 ■ 同間の評価機関等から第三者評価: 無 ・									せ・ダイハツ北海道販	売株式会社・株式会	社ホンダ四	四輪販売北	海道・株式会社ホン						
- プラス担任と歌舞担当者の連携により、発達プロス (表 年 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東		ダカース	化恍中央*4	休式芸任ノ	スイレビオ	*休式云台	エキトーレ.	ノイレリ光											
# 月にご母様度、企業の砂糖排出者と08、cのによる放職補話を実施して砂糖活動の意識の向上を図り放職活動を使す。    第三者による  学和の場合、例えば以下について信息記載				1 // <del>*</del> の **	:+#::- L::	= '⊞o <b></b>	4 mb 12	尼田事化	<b>= = +++</b> = 1 ++=	+ 除									
第三者による ※ 第三者による ※ 第一条 》 第一条 ※ 第一条 》 第一条 《 《 第一条											を促す。								
学校評価    新生活性価   計価的体: ままり   計価的体: ままり   計価的体: ままり   計価的体: ままり   計価の		■民間の	評価機関等	<b>寿から第三</b>	者評価:				無										
当該学科の ホームページ (Ntt.) // www.yoshida-seibi.p/jidoshaseibi-1kyu  (A:単位時間による算定)  総授業神数 4,067 単位時間  5 企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数 4,067 単位時間  5 企業等と連携した漫響の実施状況 9年位時間  5 企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 464 単位時間  5 企業等と連携した必修の演習の授業時数 224 単位時間  5 企業等と連携した必修の演習の授業時数 224 単位時間  (5 5 企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位  5 5 企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位  5 5 企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 単位  5 5 企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 単位  5 5 企業等と連携した海宮の授業時数 単位  5 5 企業等と連携した海宮の授業時数 単位  5 6 企業等と連携した海宮の授業時数 単位  5 6 企業等と連携した海宮の授業時数 単位  5 6 企業等と連携した必修の実験・栄置・実技の授業時数 単位  5 6 企業等と連携したがの実験・栄置・実技の授業時数 単位  5 6 企業等と連携したがの実習の授業時数 単位  5 6 企業等と連携したが多の演習の授業時数 単位  5 6 企業等と連携したが多の演習の授業時数 単位  6 7 6 企業等と連携したがの実際・栄置・実技の授業時数 単位  7 5 企業等と連携したが多の演習の授業時数 単位  6 7 6 企業等と連携したがの演習の授業時数 単位  6 7 6 企業等と連携したがの実際・実置・実技の授業時数 単位  6 7 6 企業等と連携したがの演習の授業時数 単位  6 7 6 企業等と連携したがの実際の演習を表別は実際に関策を持つ 0 人  5 7 6 の他 (事修学校設置基準第41条第1項第2号) 0 人  6 7 6 の他 (事修学校設置基準第41条第1項第2号) 0 人  6 7 6 の他 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 8 人  1 上記①~⑤のうち、実務変数員(分野におけるおおむおちちちち申以の業務の経験を有し、かつ、		※有の場合	1、例えば以7	下について任	E意記載														
当該学科の	字校評価		評価団体:			27	審年月:												
ボーバーン   http://www.yoshida-seibi.je/jidoshaseibi-lkyu	当該学科の									70112									
(A:単位時間による算定)	ホームページ	http://ww	w.yoshida-s	eibi.jp/jidos	shaseibi-1kyu	<u>1</u>													
総授業時数 4,067 単位時間 56企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 464 単位時間 56企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 0単位時間 56企業等と連携した必修の実験・装習・実践の授業時数 0単位時間 56企業等と連携した必修の演習の授業時数 0単位時間 56企業等と連携したが多の実施状況 (A、Bいずれかに記入) (B・単位数による算定) 歴授業時数 単位 56企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 156企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 56企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 56企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 56企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 56企業等と連携したがの実験・装置・実技の授業時数 単位 16年末 2000 単位 17年末 2000 日本では参考する書等 (等修学校設置基準第4条第1項第3号) 0人 (等修学校設置基準第4条第1項第3号) 0人 17年末 2000 日本では参考する書等 (等修学校設置基準第4条第1項第3号) 0人 17年20日 17年末 2000 日本では参考する書等 (等修学校設置基準第4条第1項第3号) 0人 17年20日 17年末 2000 日本では参考する書等 (等修学校設置基準第4条第1項第3号) 0人 17年20日 17年20日20日 17年20日 17年20日 17年20日 17年20日 17年20日 17年20日 17年20日 17年20日 17	URL																		
うち企業等と連携した演習の授業時数		(A:単位	立時間による	る算定)															
うち企業等と連携した深図の授業時数			総授業時数																
予ち必修授業時数								授業時数			464	単位時間							
うち企業等と連携したと乗響をと連携した必修の実験・楽習・実技の授業時数						演習の授業	<b>能時数</b>												
② 1 全業等と連携した 次 1 会 1 会 2 会 2 会 2 会 2 会 3 会 3 会 3 会 3 会 3 会 3				うち必修打															
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)    B:単位数による算定																			
選挙等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)    おり																			
(A、Bいずれか に記入)    経授業時数   単位   単位   単位   単位   単位   ラち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数   単位   ラち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   ラち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   ラち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   「ラち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   単位   「 事修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間と   (事修学校設置基準第41条第1項第1号)   ②				(うち企業	¥等と連携し	たインター	-ンシップ	の授業時数	()		224	単位時間							
(日:単位数による昇定) 総授業時数 単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 単位  ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した相関とを通算して大年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 4 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 (参生の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 3 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 4 人 (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 5 その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 8 人 計 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、		,	I Marcon Company	ote _t_ ·															
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		(B:単位										24 /±							
第4 日本   10					tr L. Yeller I.	<b>PR</b>	я. ьн.	+121 ## n+ #L											
うち必修授業時数								授耒時奴											
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   「うち企業等と連携したインターンシップの授業時数   単位   単位   「うち企業等と連携したインターンシップの授業時数   単位   単位   単位   単位   単位   単位   単位   単						演首の授業	卡吁奴												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   1   1   1   1   1   1   1   1   1				つら必修打		と連催した	心体の中	验。中四	宝はの極業味業										
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)  ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 4 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人  ② 学士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人  ⑥ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 8 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、																			
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した相間とを通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 4 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 教員について記入) (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 8 人 計 12 人				(3+ ^4															
いてその担当する教育等に従事した者であって、当 該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間と を通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等  ② 等体学校設置基準第41条第1項第2号)  4 人  ③ 高等学校教諭等経験者  ③ 専修学校設置基準第41条第1項第3号)  ④ 修士の学位又は専門職学位  ③ 専修学校設置基準第41条第1項第4号)  ⑤ その他  (専修学校設置基準第41条第1項第5号)  8 人  計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、				(丿り正き	κ守 C 運携し	ニュ フダー	フラツノ	の反未研究	V			卑1近							
いてその担当する教育等に従事した者であって、当 該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間と を通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 4 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 0 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 8 人 計 12 人																			
いてその担当する教育等に従事した者であって、当 該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間と を通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 4 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 0 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 8 人 計 12 人			① 専修学	校の専門	課程を修了し	た後、学	交等にお												
数員の属性 (専任教員について記入)   数員の属性 (専任教員について記入)   (専修学校設置基準第41条第1項第2号)   4 人			いてその担	⊒当する教育	育等に従事し	た者であっ	って、当	(専修学	校設置基準第41条第1項	頁第1号)	0	人							
教員の属性 (専任教員について記入)     ③ 高等学校教諭等経験者     (専修学校設置基準第41条第1項第3号)     0人       (4) 修士の学位又は専門職学位     (専修学校設置基準第41条第1項第4号)     0人       (5) その他     (専修学校設置基準第41条第1項第5号)     8人       計     12人						がっぱ争し7	二州旧と												
教員の属性 (専任教員について記入)       ③ 高等学校教諭等経験者       (専修学校設置基準第41条第1項第3号)       0人         (4) 修士の学位又は専門職学位       (専修学校設置基準第41条第1項第4号)       0人         (5) その他       (専修学校設置基準第41条第1項第5号)       8人         計       12人				- M. ( )	L = 20.00			/ <del></del>	11 = 1 cm +1 ··· · · · · ·	EMO CI									
教員について記																			
(a) 修士の子位又は専門職子位     (専修子校設置基準第41条第1項第5号)     0 人       (⑤ その他     (専修学校設置基準第41条第1項第5号)     8 人       計     12 人       上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、     0 よ			③ 高等学	校教諭等	経験者			(専修学	校設置基準第41条第1項	貞第3号)									
計 12 人  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、			④ 修士σ	学位又は	専門職学位			(専修学	校設置基準第41条第1項	頁第4号)	0	人							
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、			⑤ その他	b				(専修学	校設置基準第41条第1項	頁第5号)	8	人							
			計								12	人							
												·							
			上記①~6	のうちょ	実務家教員(	(分野におり	ナるおおむ	ね5年以	上の実務の経験を有し	、かつ、									
							. 200004	.0 3 [-8/2	TO THE STATE OF TH		9	人							

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を 行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
- 一級自動車整備学科では、実践的かつ専門的な職業教育を実践する為、教育課程編成委員会による意見を尊重し、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目開設、授業内容・実施方法の改善・工夫等)等に活かすことを基本方針とする。
- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- ①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実 践教
- 育課程の編成に活かす為、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。
- ・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項
- ・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項
- ・学則の教育課程に関する事項
- ・教育課程に基づくシラバスに関する事項
- ・実習・演習等に関する事項
- ・その他、職業教育に関する事項
- ②教育課程編成委員会の提言等を踏まえ、職員会議にて付議・検討を行い、授業科目の追加や授業内容・方法の改善・工夫を行う。 なお、学則変更を伴う教育課程の変更については、理事会の決議を経て行われる。また、シラバス・実習・演習に関する変更について は、校長の決裁を経て行われる。

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在 名前 属 任期 種別 所 -般社団法人 札幌地方自動車整備振興会 令和4年4月1日~ 三野 雅章 (1) 常務理事 令和6年3月31日(2年) ダイハツ北海道販売株式会社 令和4年4月1日~ 加藤 敦哉 (3) サービス部品部 部長 令和6年3月31日(2年) 北海道スバル株式会社 令和5年7月1日~ 加藤 寛史 3 令和6年3月31日(9カ月) 総務部 人事教育課 課長 北海道いすゞ自動車株式会社 令和5年3月1日~ 漆館 礎樹 (3) 総務部 次長 令和6年3月31日(1年1カ 令和4年4月1日~ 株式会社エステイビジネスアシスト 木田 政彦 (3) 人材開発部 次長 令和6年3月31日(2年) 専門学校北海道自動車整備大学校 令和5年4月1日~ 大山 節夫 令和6年3月31日(1年) 校長 専門学校北海道自動車整備大学校 令和5年4月1日~ 勝長 裕二 副校長補佐 令和6年3月31日(1年) 専門学校北海道自動車整備大学校 <del>令和4年4月1日</del>~ 今野 和彦 -級自動車整備学科 学科長 令和6年3月31日(2年) 専門学校北海道自動車整備大学校 令和4年4月1日~ 前田 一也 -級自動車整備学科 副学科長 令和6年3月31日(2年) 専門学校北海道自動車整備大学校 令和4年4月1日~ 小笠原 悟 主任 令和6年3月31日(2年) 専門学校北海道自動車整備大学校 令和4年4月1日~ 伊藤 聖 主任 令和6年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 専門学校総合事務局 千葉 一俊 学校事務部 部長 令和6年3月31日(1年)

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月29日休 17:30~18:30 第2回 令和5年3月23日休 16:30~17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

昨年度の取り組みに対する意見や改善への提言を基に、新たな取り組みの重要性・必要性に関する意見交換を行った。学んだ知識や技術を現場で生かせるカリキュラムの工夫が重要との助言があり、実務に直結したカリキュラムの編さんも視野に、今後どのような形で反映させるのか検討を行うこととした。

#### 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習承諾書・協定書・事業委託契約書等による連携を基本とし、実践的かつ即戦力となり得る技術習得を目指すために連携を行うもの

#### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 (インターンシップ)

- ・学内での事前ガイダンスにより各自目標設定(インターンシップ実習における目標と1週間単位の目標)を行い、週1回の登校日に週間報告書(1日単位の実習内容と実習成果の記入)の作成とディスカッション及び報告会を実施する。
- ・実習期間中、教員は2回以上実習先を訪問し、実習指導者との面談により実習状況と報告書の記載内容の情報共有を行い、今後の 実習展開に活用する。
- ・インターンシップ実習終了後、報告会(全教員、下級生参加)を実施し、結果について各企業にフィードバックし情報共有を行う。

#### (エンジン実習・電気装置実習)

- ・メーカー整備工場等における現場メカニックにより直接指導のもと理解を図る。
- ・連携授業での実習等で習得した技術と、それに取り組んだ姿勢(受講態度、積極性、及び出席状況)、レポートの提出等を加味し、企業連携先と協同にて総合的に評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

`	科目名	科 目 概 要	連携企業等
	インターンシップ実習	・各種自動車整備技術、故障診断技術を企業で活用させることを目的とする。 ・併せて、サービスアドバイザーとしての役割を担う為の体験と企業での人間関係を学ぶ。	札幌トヨペット株式会社 トヨタカローラ札幌株式会社 北海道日野自動車株式会社 北海道マツダ販売株式会社 北海道スバル株式会社
	エンジン実習皿	・自動車の構造及び機能を理解して、故障診断の進め方を学ぶ ・故障が発生した時の車両の様々な状態について確認する。	札幌トヨペット株式会社
	電気装置実習Ⅱ	・電子制御式点火装置のシステム概要と作動を確認し、外部診断機の正常時のデーターの見方と異常時のデーターの違いを理解する。 ・電子制御式点火装置 ・オシロスコープで点火波形を確認 ・外部診断機で点火信号の確認 ・エンジンのオールデーターの見方	株式会社スズキ自販北海道

#### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員は、学校法人吉田学園研修規程により次に掲げる各研修を通し、現在就いている業務又は将来就くことが予想される業務の遂 行に必要な知識・技術・技能等を修得するとともに、その他その遂行に必要な能力・資質等の向上を図ることを基本方針とする。

• 教職員研修会

• 専門学校教育研修会

•階層別研修

・外部研修等(学会等を含む)

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 整備主任者講習(技術研修学科編、実習編) 連携企業等: - 般社団法人 札幌地方自動車整備振興会

| 令和4年6月6日(月)・7月29日金・8月1日(月)・8月2日(火) | 対象: 正職員 \*8月17日(水)・10月3日(月)・10月4日(火)・10月21日金 | 対象: 正職員

内容 各メーカーの新技術の構造及び機能

研修名: 整備主任者技術研修指導員講習会 連携企業等: 本田技研工業株式会社

期間: 令和5年2月21日(水) 対象: 正職員

内容 本田技研工業の二輪

研修名: 整備主任者技術研修指導員講習会 連携企業等: トヨタ自動車株式会社

期間: 令和5年3月29日(水) 対象: 正職員

内容 ステアリング系統の構造・機能及び診断技術

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教員能力認定研修会 連携企業等: 北海道和立事修学校各種学校教育能力認定委員会

期間: 令和4年8月2日火 対象: 私立専修学校各種学校

連合会会員校の教職員

対象: 正社員・嘱託職員全員

内容
北海道私立専修学校各種学校教育能力認定委員会主催で研修会を実施し、教員の授業及び学生に対する指導能

力等の修得・向上を図る。

研修名: 専門学校教育研修会 連携企業等: なし

期間: 令和4年8月10日(水) 対象: 教職員

内容 動機付けモデルを活用した授業の工夫等

研修名: 教職員研修会 推式会社ブロッサム 連携企業等: 素兼院

内容 新年度を迎えるにあたり、理事長及び外部講師の講話を拝聴し、全職員を統一し士気の高揚を図る。

(3)研修等の計画

期間:

内容

①専攻分野における実務に関する研修等

令和5年3月16日休

研修名: 整備主任者講習(技術研修学科編、実習編) 連携企業等: -般社団法人 札幌地方自動車整備振興会

令和5年6月5日(水・7月4日(火・8月1日(火・8月3日(木

各メーカーの新技術の構造及び機能

期間: -8月30日(水)・9月22日金・10月2日(月)・10月4日(水) 対象: 正職員

-10月18日(水)-10月31日(火)

研修名: 日産技術講習会 連携企業等:日産自動車株式会社

期間: 令和5年8月1日火 対象: 正職員

内容 日産先進技術に関する講習及び日産EV技術に関する講習

研修名: SUBARU技術研修会 連携企業等: 北海道スバル株式会社

期間: 令和5年8月3日休 対象: 正職員

内容 SUBARUの考える環境配慮と走りの愉しさの両立等

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教員能力認定研修会 連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校教育能力認定要員会

公益社団法人 北海道 対象:私立専修学校各種学校

連合会会員校の教職員

水海道私立専修学校各種学校教育能力認定委員会主催で研修会を実施し、教員の授業及び学生に対する指導能内容 カースの作用・ウェス

力等の修得・向上を図る。

令和5年8月1日(火)

研修名: 専門学校教育研修会 連携企業等: 北海道医療大学心理学部長

期間: 令和5年8月10日休 対象: 教職員

内容 学生の多様化に対する教育相談のあり方の講演後分科会

研修名: 教職員研修会 連携企業等: 未定

期間: 令和6年3月 対象: 正社員・嘱託職員全員

内容 未定

期間:

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を 行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は、学校が行った次の事項に対する自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は、当該委員会においての意見・評価を、自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ることを基本方針とする。

- ·教育理念·目標
- •学校運営
- 教育活動
- •学修成果
- •学生支援
- •教育環境
- ・学生の受け入れ募集
- •財務
- 法令等の遵守
- •社会貢献•地域貢献
- •国際交流

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

(2)「専修学校にあける学校評価ガイトライン」の項目 ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念·目標	①学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ②学校における職業教育の特色は何か ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者 等に周知されているか ⑤学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向 けて方向づけられているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効 に機能しているか ④人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法 の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラム の作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ はあるか ⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を 確保しているか ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む) を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の ⑬関連力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者と適切に連携しているか ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	①施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③納付金は妥当なものとなっているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適正に行われている ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己点検・評価結果を公開しているか

(10)社会貢献・地域資	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	①留学生の受入れについて戦略を持って行っているか ②留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されている か ④学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

#### ※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

学校自己点検評価や退学者・入学者の動向・国家試験の取り組みなどの現状を報告し、自己点検評価に関して最上位評価となって いない項目の改善方法について、国家試験の今後の傾向・展開、留学生受験への対応の仕方及び採用後の教育方法について、国家 試験合格率向上に向けた取り組み方や社会貢献・地域貢献などについての助言をいただいた。

特に評価の低かった退学率の低減については、教職員間の情報共有、個々の学生の状況把握と課題の早期対応を図り進めていく こととした。加えて、学生募集については、広報企画部との協力・情報共有を密に、全職員体制で取り組みを図ることとした。

#### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

			10 T 071 1 1 1 1 1 1 1
名 前	所 属	任期	種別
三野 雅章	一般社団法人 札幌地方自動車整備振興会 常務理事	令和4年4月1日~ 令和6年3月31日(2年)	業界団体委員
加藤 敦哉		令和4年4月1日~ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
加藤 寛史	総務部 人事教育課 課長	令和5年7月1日~ 令和6年3月31日(9カ月)	企業等委員
漆館 礎樹	北海道いすゞ自動車株式会社  総務部 次長	令和5年3月1日~ 令和6年3月31日(1年1力	企業等委員
木田 政彦	株式会社エステイビジネスアシスト 人材開発部 次長	令和4年4月1日~ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)<u>学校関係者</u>評価結果の公表方法・公表時期

**(ホームページ)** 広報誌等の刊行物 · その他( ))

URL: http://yoshida-g.ac.jp/disclosure/seibi/

令和5年10月31日 公表時期:

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学科目的に掲げた職業人の育成には、学校関係者との信頼関係を築き、連携・協力体制の構築が必要不可欠であり、その為に適切なツールにより、積極的な情報提供を行うことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

2) 専門字校における情報提供等への取組に ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革・歴史 ・設立と教育目標、理念、教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等
(2)各学科等の教育	・定員数、在学生数 ・カリキュラム(授業概要、授業時数等) ・進級・卒業要件等(成績評価基準、進級・卒業の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・卒業者数、卒業後の進路(主な就職先、就職者数、就職率等)
(3)教職員	•教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取り組み状況 ・現場実習等の取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況 ・部活動の活動状況および実績 ・施設・設備等の教育環境
(6)学生の生活支援	・学生・生活指導への取り組み状況 ・カウンセリングの体制整備等に関する状況
(7)学生納付金·修学支援	・学生納付金の取扱い(学費・納入時期等) ・活用できる修学支援の内容(奨学金、経済的支援等制度、貸付金の案内等)
(8)学校の財務	·事業報告書 ·貸借対照表 ·収支計算書 ·監査報告書
(9)学校評価	・自己点検・評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ムページ 伝報誌等の刊行物 その他(

URL: <a href="http://yoshida-g.ac.jp/disclosure/">http://yoshida-g.ac.jp/disclosure/</a>

公表時期: 令和5年10月31日

# 授業科目等の概要

				一級自動車整備学科)												
		分類							授	業方	法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演習	実習		校 外	専任	兼任	企業等との連携
1	0			自動車工学 I	自動車の構造や機能、基本的な原理・法則を 学ぶ。	1	66	4	0			0		0		
2	0			自動車工学Ⅱ	高度な自動車の構造や機能、技術知識を学 ぶ。	2	66	4	0			0		0		
3	0			自動車工学Ⅲ	自動車工学問題への応用力及び最近改正され た法令、主要通達を学ぶ。	3	68	4	0			0		0		
4	0			自動車数学	職場における事務的な計算(検査)について 学ぶ。	1	66	4	0			0		0		
5	0			エンジン構造 I	エンジンを構成する基本構造、原理、機能に ついて学ぶ。	1	33	2	0			0		0		
6	0			エンジン整備 I	エンジンを構成する基本構造、機能、整備に ついて学ぶ。	1	33	2	0			0		0		
7	0			エンジン構造 Ⅱ	基礎知識からより実務に即した故障探求を含め特殊機構等を学ぶ。	2	33	2	0			0		0		
8	0				より実務に即した故障探求を含め特殊機構等 の整備について学ぶ。	2	33	2	0			0		0		
9	0			シャシ構造 I	動力伝達装置、ステアリング装置等の構造、 原理、機能について学ぶ。	1	33	2	0			0		0		
10	0			シャシ整備 I	動力伝達装置、ステアリング装置等の構造、 機能、整備について学ぶ。	1	33	2	0			0		0		

				一級自動車整	整備学科)										
	必	分 選択必修	白	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	業方 演習	実験・実習	校	事 任	兼	企業等との連携
11	0			シャシ構造Ⅱ	自動車の安全性を重視し、構造、機能につい て学ぶ。	2	33	2	0			0	0		
12	0			シャシ整備Ⅱ	自動車の安全性を重視し、構造、機能及び電 子技術を学ぶ。	2	33	2	0			0	0		
13	0			電装品構造 I	電気・磁気・半導体の基礎及びバッテリの概要、構造について学ぶ。	1	33	2	0			0	0		
14	0			電装品整備 I	始動・点火・充電装置等の構造、作動について学ぶ。	1	33	2	0			0	0		
15	0			電装品構造Ⅱ	自動車の電装品、電子制御装置等のより高度 な技術知識を学ぶ。	2	33	2	0			0	0		
16	0			電装品整備Ⅱ	自動車の電装品、電子制御装置等のより高度 な整備技術を学ぶ。	2	33	2	0			0	0		
17	0			法令・検査	自動車整備関係法令及び道路運送車両法の保 安基準津について学ぶ。	2	66	4	0			0	0		
18	0			エンジン制御 整備診断技術	エンジンを取りまくセンサ等の機能、信号形態、異常検知等の知識を学ぶ。	З	68	4	0			0	0		
19	0			シャシ制御 整備診断技術	コントロールユニットの機能、信号形態、異 常検知等の知識を学ぶ。	3	68	4	0			0	0		
20	0			自動車新技術	新技術の対応と故障診断についてエンジンと シャシ関係に分けて学ぶ。	3	68	4	0			0	0		

		門部		一級自動車整備学科)											I +/L = I	
		分類							授	業方	法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数		演習	実習			専任		企業等との連携
21	0			電気工学	自動車電子化に対応するための電気、電子回 路を学ぶ。	3	22	1	0			0		0		
22	0			総合診断	自動車ユーザーの保守管理を支援する為の応 酬話法を学ぶ。	3	22	1	0			0		0		
23	0			環境保全	環境保全の必要性と意義、資源の有効利用、 廃棄物処理の対応等を学ぶ。	3	22	1	0			0		0		
24	0			工作実習	日常の健康管理、環境整備、基本整備作業を 学ぶ。	1	84	2			0	0		0		
25	0				ガソリンエンジンの基礎について分解、点 検、整備について学ぶ。	1	168	4			0	0		0		
26	0				特殊エンジン等の構造、機能、分解、測定、 整備について学ぶ。	2	135	3			0	0		0		
27	0			エンジン実習 皿	OBDテスターによる故障診断とその活用法 を学ぶ	3	156	4			0	0		0		0
28	0			電気装置実習 I	始動装置(スタータ)の構造、機能、性能に ついて学ぶ。	1	84	2			0	0		0		
29	0				点火装置、灯火装置、電気装置の分解、点 検、測定、整備について学ぶ。	1	84	2			0	0		0		0
30	0			電気装置実習 Ⅲ	実験用電気・電子回路及び、ベンチ・エンジ ン等での測定、観測方法を学ぶ。	2	135	3			0	0		0		

			 一級自動車整	<b>峰備学科</b> )									
	必	分 選択必修	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	時	单 位 数	講	法 実験・実習・実技	校	教 専 任	兼	企業等との連携
31	0		シャシ実習 I	動力伝達装置等の分解、点検、測定、整備に ついて学ぶ。	1	84	2		0	0	0		
32	0		シャシ実習Ⅱ	動力伝達装置等の分解、点検、測定、整備について学ぶ。	1	84	2		0	0	0		
33	0		シャシ実習Ⅲ	基礎学習を基に動力伝達装置等及び、CVTについての総合学習を行う。	2	135	3		0	0	0		
34	0		シャシ実習Ⅳ	4WD車の各装置の分解、点検、測定、調整、整備を学ぶ。	3	156	4		0	0	0		
35	0		シャシ電装 実習	点火装置、灯火装置、電気装置の分解、点 検、測定、整備について学ぶ。	1	84	2		0	0	0		
36	0		自動車検査 実習	定期点検整備の技術を習得し、各種検査機器 で点検、測定作業を学ぶ。	2	135	3		0	0	0		
37	0		車体工作実習	車体修理の基礎技術を学ぶ(板金作業、溶 接・板金作業)。	2	135	3		0	0	0		
38	0		二輪自動車 実習	二輪自動車の構造、整備技術について学ぶ。	2	46	1		0	0	0		
39	0			多様化する自動車エンジン電子制御装置につ いて測定技術を学ぶ。	3	56	1		0	0	0		
40	0		振動・騒音 実習	振動・騒音分析器を活用し、高度な診断技術 を学ぶ。	3	56	1		0	0	0		

	(専門課程 一級自動車整備学科)															
		分類							授	業方	法	場	場所		員	
		選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	時	単位数		演習	実験・実習・実技			専任		企業等との連携
41	0				技術コンサルタントとしての必要な基礎知 識、整備保証業務等を学ぶ。	3	100	2			0	0		0		
42	0			応用整備実習 I	分解点検整備を通して基本作業を徹底し、高 度整備技術を学ぶ。	3	148	3			0	0		0		
43	0			インターン シップ実習	自動車整備技術、故障診断技術を企業で体験 し、企業での人間関係をも学ぶ。	4	224	4			0		0	0		0
44	0			整備計画実習 Ⅱ	整備の専門知識を提供する技術コンサルタン トとしての技術を学ぶ。	4	78	2			0	0		0		
45	0				エンジン・シャシに関して応用的な故障診断 技術を学ぶ。	4	156	4			0	0		0		
46	0			応用整備実習 Ⅲ	ジーゼルエンジンの直接噴射式とコモンレー ル式の構造、点検、整備を学ぶ。	4	156	4			0	0		0		
47	0			総合整備実習 I	車両全体としての振動・騒音現象の発生メカ ニズム等を学ぶ。	4	156	4			0	0		0		
48	0			П	車検制度の法的背景を学習し、予防整備も含め整備技術を学ぶ。		234				0	0		0		
			合	<u></u>	48	科	目	1	30 (	(4,0	67)	単位	立 (	単位	時間	引)

卒業要件及び履修方法		授業期間等		
卒業要件:	授業科目を履修し、その効果が満足と認められたときは、所定の会議の議を経て各学年の課程の修了又は卒業を認定する。	1 学年の学期区分	2	期
履修方法:	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画にしたがって授業科目を履修する。	1 学期の授業期間	19	週

# (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。